

文書館は 福井の歴史とあなたをつなぐ かけ橋です。

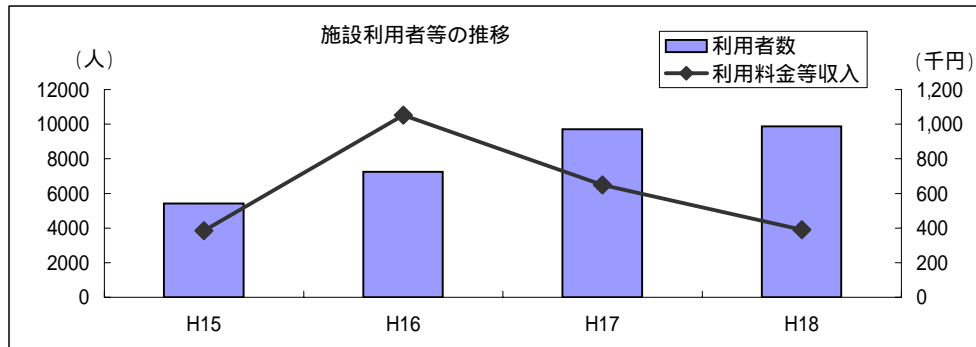
所在地	福井市下馬町51-11		
設置年月日	平成15年2月1日		
施設の種類	文書館	施設管理主体	県
設置の目的	県に関する歴史的な資料として貴重な公文書、古文書等の収集、保存、調査、研究等を行い、広く一般に公開して閲覧利用に供し、県民の歴史探求、生涯学習を支援することにより、学術の振興および文化の向上を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造 地上2階、延床面積3,119㎡ 収蔵冊数 歴史的公文書3万冊、古文書複製本2万9千冊、行政資料1万8千冊		
職員数	職員6人 非常勤嘱託6人 アルバイト2人 計14人		

利用状況等

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
利用者数(人)	5,417	7,242	9,703	9,880
閲覧申込点数(点)	4,227	7,045	13,819	7,595
ホームページ閲覧件数	737,160	733,759	810,067	1,147,307

利用者負担(利用料金)等

施設使用料	研修室	6,600円 (全日の場合)
複写手数料	白黒	10円
	カラー	80円



利用状況の推移	<p>平成15年2月の開館以来、利用者数は毎年増加しており、平成18年度は前年度1.8%増の9,880人の利用がありました。</p> <p>ホームページでは所蔵資料の検索や歴史情報の収集ができ、平成18年度は前年度41.6%増、約115万件余のアクセスがありました。</p> <p>平成16年度後半から17年度にかけて特定の利用者による集中的な閲覧利用があったため、閲覧申込点数、利用料収入とも一時的に増加しましたが、18年度は平年並みの水準に戻りました。</p>
---------	--

施設の特徴

歴史的資料の閲覧利用

収集した歴史的公文書や古文書は、一般に公開しており、調査研究活動などに利用することができます。



古文書：勝見宗左衛門家文書

講座・講演会等の開催

古文書の読み方を学ぶ古文書入門講座、福井県の県史講座、講演会などを開催しています。



文書館講演会

企画展示・収蔵資料展示

家族で楽しみながら県の歴史を学べる企画展示や月替わりで様々な収蔵資料を紹介する展示を行っています。



2月展示 福武電鉄・南越鉄道沿線名所図絵
加藤殺家文書(1933年)

学校教育との連携

文書館と連携して学校の授業や学習活動が展開できるよう、支援を行っています。

- ・県立高校出張授業
- ・インターンシップ受入
- ・中学生の「郷土新聞」作成支援



県立高校出張授業

文書館ホームページ

<http://www.archives.pref.fukui.jp/>

平成18年度の特徴について

事業実績

平成18年3月にあわら市から藤野巖九郎の肉親にあてた直筆の手紙や仙台医専教授への任命辞令などの資料103点が寄託されました。これを契機に、中国の文豪、魯迅と親交のあった藤野巖九郎の足跡について、特別展を開催しました。

- ・開催期間 平成18年4月27日～5月7日

5月から、月替わりで収蔵資料を紹介する展示を行いました。16世紀の太閤検地帳や江戸時代の和紙、大正期の新聞写真など、様々な資料を原本で展示しました。

農業試験場から、明治～昭和にかけて県内で発行された農業情報誌などの行政刊行物(約6,000冊、コシヒカリが本県で誕生した経緯等を記載した資料を含む。)が移管されました。これを契機に、農業試験場と連携して11月に「コシヒカリ育成記録展」を開催しました。

- ・開催期間 平成18年10月27日～11月23日

古文書入門講座の受講希望が多かったため、開催回数を増やしたほか、高浜町でも出前古文書入門講座を開催しました。

- ・文書館 平成18年5・6月(2日間)、8月(2日間) 計122人受講
- ・高浜町(出前) 平成18年10月(2日間) 計31人受講

福井県文書館(2/2)

行政コスト計算書(平成18年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	71,624	48.9%	103.6%
	退職給与引当金繰入	390	0.3%	-
	計	72,014	49.2%	103.9%
物にかかるコスト	物件費	44,432	30.3%	93.2%
	維持補修費	1,239	0.8%	286.1%
	減価償却費	13,491	9.2%	100.0%
	計	59,162	40.3%	96.1%
その他	公債費(利子)	14,366	9.8%	94.2%
	その他	1,041	0.7%	-
	計	15,407	10.5%	101.1%
合計		146,583	100.0%	100.3%
収入	利用料等収入	391	0.3%	60.2%
	その他収入	1,140	0.8%	112.4%
	一般財源	145,052	99.0%	100.4%

バランスシート(平成19年3月31日現在) (単位 千円)

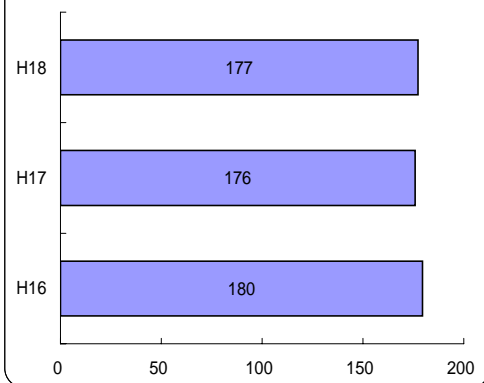
借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	592,087	97.8%	固定負債	1,106,356	93.3%
うち建物	568,132	97.9%	うち起債残高	1,058,626	93.0%
			うち退職手当引当金	47,730	100.8%
投資等	0	-	流動負債	79,243	100.0%
流動資産	0	-	正味資産	593,512	90.1%
計	592,087	97.8%	計	592,087	97.8%

主な指標 (単位: %, 円/人)

	H18	H17	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	723	738	98.1%
県民1人あたり将来負担額	1,352	1,443	93.6%
世代間負担率	100.2	108.8	92.1%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>文書館の主要事業である歴史的公文書、古文書の収集、整理、調査、研究は業務が特殊なため、委託が困難であり、そのほとんどを職員が直接対応しています。(文書の調査・研究を専門に行う職員3人、非常勤嘱託6人)</p> <p>また、収集や調査研究結果の公開等については、多額の事業費(物件費)を必要としないので、文書館が担う事業の性質上、人件費が相対的に高い割合となっています。</p> <p>施設・設備の保守委託が物件費の約4割を占めています。</p> <p>他県の施設(香川県立文書館)との比較では、人件費・物件費はほぼ同等ですが、施設が新しいため、維持補修費は約7分の1に抑えられています。</p> <p>本県文書館は、図書館との併設で利用しやすい環境にあること、展示等による施設のPRに努めていることから、他県施設と比較しても利用者が多い状況にあります。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>福井県の貴重な歴史的公文書、古文書、行政刊行物などの資料の収集、整理、保存および調査研究を行っています。</p> <p>〔収蔵冊数の増加 歴史的公文書 約1,500冊、古文書 約500冊、行政刊行物 約6,400冊〕</p> <p>収集した資料は、県民の調査研究活動や生涯学習を支援するため、広く一般に公開しています。</p> <p>古文書入門講座や県の歴史についての講座・講演会、企画展示、収蔵資料展示などを開催し、県の歴史や歴史的資料の重要性について情報提供を行っています。</p> <p><事業費の内訳> 施設の維持管理経費 約37百万円、調査研究等経費 約8百万円</p>
今後の課題	<p>歴史的公文書や古文書という特殊な資料を保存し、閲覧利用するという施設の性質上、利用者の範囲が古文書の研究者、歴史愛好者などにある程度限定されています。県の歴史に関する多くの貴重な資料の利用を県民にも広げていけるよう、歴史的文書への関心の喚起や新出資料の情報提供などが必要です。</p>
今後の事業方針、取組み内容	<p>近隣県の文書館と比べても、本県文書館の利用者は多く、利用者は毎年増加していますが、今後も以下の取組みにより、さらに利用者の増加を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展示や収蔵資料展示で新出資料を含む収蔵資料の紹介を行い、館の歴史的資料をPRします。 学校教育との連携を進め、中高生の授業などでの資料活用を図ります。 県民ニーズに応じた講演会や講座を開催し、多くの県民の方に資料に触れる機会を提供するなど、県民の生涯学習活動を支援します。 ホームページで講座の内容や刊行物などを公開し、福井県の歴史を学習できる環境整備に努めます。

県民1人あたりのコスト負担の状況(円)



東海北陸の文書館の10万人あたり利用者数(人)

